お知らせ

愛媛大学大学院医学系研究科及び医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、妊娠中から生まれた子を追跡している出生前コーホート研究である九州・沖縄母子保健研究にご参加いただいた方々より得た質問調査票のデータ及び口腔粘膜細胞採取による遺伝子検体等を使用します。九州・沖縄母子保健研究は平成 19 年度から福岡大学医学部公衆衛生学教室に研究事務局を設置し、情報・試料を得ました。全ての情報・試料を愛媛大学大学院医学系研究科疫学・公衆衛生学講座に移管し、研究を継続しています。

九州・沖縄母子保健研究にご参加頂いている方或いは以前にご参加いただいた方で、この研究の内容を詳しく知りたい方や、質問調査票のデータや口腔粘膜細胞採取による遺伝子検体を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】
九州・沖縄母子保健研究

【研究機関】愛媛大学大学院医学系研究科

【研究責任者】三宅吉博（疫学・公衆衛生学講座　教授）

【研究の目的】

九州・沖縄母子保健研究で得られた情報に基づき、子供のアレルギー疾患、う蝕、出生児低体重、行動や発達の問題や母親のアレルギー疾患、産後うつ症状等母子の健康問題のリスク要因及び予防要因を調べています。母子保健の一次予防に資するエビデンスを創出しています。妊娠を控えた母親の生活習慣を改善することにより、子供の疾病発症を予防できる可能性が高まり、予防医学上、非常に重要な知見が得られると考えています。

【研究の方法】
（対象者）平成 19 年度、妊娠中に調査にご参加いただきました 1,757 名の妊婦さんとその生まれたお子さんです。
（利用する情報）周産期及び出生後の長い期間における生活習慣、生活環境、既往歴　等

（利用する試料）口腔粘膜細胞採取により得た遺伝子検体

【共同研究について】

この研究は、東北大学東北メディカル・メガバンク機構が主導する The Japan Birth Cohort Consortium（JBiCC）に参画しています。

本研究に参加している母子のデータ/試料は、匿名化されて、USB に保存した電子ファイルと試料を郵送することによって東北大学東北メディカル・メガバンク機構に送られます。東北大学が持つ最先端の技術を活用し、本研究以外の国内の複数の出生コーホート研究も参画することで、非常の多くの人数で解析することができ、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

また、JBiCC の一環として、母子の匿名化されたデータは USB に保存して国立成育医療研究センター研究所、浜松医科大学、東北医科薬科大学、北海道大学、千葉大学、東京大学にも送られます。

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など対象者を直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【試料・情報の管理責任者】

愛媛大学大学院医学系研究科疫学・公衆衛生学　三宅吉博

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合や、本研究参加者で参加を取りやめたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の対象者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学大学院医学系研究科疫学・公衆衛生学　三宅吉博
〒791-0295　愛媛県東温市志津川 454
Tel: 089－960－5283
Email: epi-prev@m.ehime-u.ac.jp